

僕と福祉とおじいちゃん

南郷中学校

一年

榎本

太一

僕の中の祖父はそれぞれ違った形で福祉の力を貸りて週びしていった。僕は二人の生活の仕方について話そうと思う。

父方の祖父は、祖母が高齢になつてきたため介護施設に入つて暮らしていた。会いに行つた時に見たのは、施設の人が、食事を始めとした生活のサポートをしていた。しかし、

新型コロナウイルスの影響で面会が難しくなつてしまいが、最期に立ち会うことができずとても悲しかった。

一方、母方の祖父は難病を二又抱えて入院していたが、本人と家族の強い希冀をお医者さんが考慮してくれて、自宅での介護が出来るようになった。僕はそこで始めて、自宅での介護にはたくさんの手が必要だという事を知った。お医者さんが月二回、リハビリの人が週二回、訪問入浴が週一度、ケアマネー

ジャリーさんが月一回、バンドや車椅子を買してくれるリースの人が時々点検に来て、薬剤師の人が毎回薬を届けてくれていたという事を祖母から聞いた。僕は、家に人が来ず手伝ってくれているのは知っていたけれど、これほど多くの人が祖父のために力を尽くしてくれていたとは思っていませんでした。

祖父がずっと苦しめながら生活していると思っていたけれど、心配しながら会いに行きたとき、普通に会話ができて状況が悪いとは

分かっていて少しホッとした自分がいた。でもやはり、お医者さんや介護に携わってくれている人達と家族が手厚くサポートしてくれていたおかげなのだ。今となっては思う。

僕ほりハビリなどの体を繋にあることは出来なかつたし、毎日会いに行ける距離ではなかつた。出来事には少なかつたけれど、マイレを送ったりして会話をするようになっていた。少しでもやれが心の支えになっていたら嬉しい。

祖父は三年間、難病と闘り続けて、今年の五
 月初旬に僕らに会って、それから息をひき取った。
 二人の祖父を見てきて、僕らは人や環境、病
 気によって利用する福祉が違ったり関わる人
 が変わるといいうことが分かった。自分や家族
 が望む暮らしの形を作るには、まずはどんな福
 祉があるのか、どの様に利用するのが良いの
 かを学ぶ必要があると思う。施設などの場合
 は見たり聞いたりするだけでは分からぬ事
 も多くあると思うので、実際に調べた場所に
 行ってどんな様子かを知ることも大事だろう。
 自分たちとしては、まだまだ先の話になるか
 もしれないし、今の時の福祉が今とは違つか
 もしれない。僕はこれからまた、高齢者が増
 えると思うから、今よりも、と福祉が手厚く
 なっていくといいなと思う。なぜなら、僕の
 祖父の様にたくさん人の手を貸りながらも、その
 人らしく過ごしていくことが出来たら、介護をする
 人もそれこそ人も幸せに暮らせる時間が増える
 のではないかと思うから。

